

三重県立上野高等学校
同窓会報

白 HAKUA 亜 VOL.1



昼休み——
明治校舎の中庭は
生徒たちの
くつろぎの場に。

事務局：〒518-0873 三重県上野市丸之内107

上野高等学校内

TEL & FAX：0595-24-2231

E-mail：hakua@ict.ne.jp

ごあいさし



同窓会長 星 周輔

上野高等学校同窓会員の皆様には、御健勝にてお過ごしのことと存じます。

平素は、当同窓会の活動に何かと御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る平成二十三年一〇月六日、同窓会総会に於いて、平成二十二年取支決算書および二十三年度予算案を御承認いただきました。その内容は別項の通りであります。その予算案と関連して、会則の変更が行われ、同窓会の年会費制を実施することを御承認いただきました。年会費は年額二〇〇〇円です。日本中に不況風が吹く中、誠に恐縮に存じますが、同窓会の財政基盤を充実し、同窓会の各支部の活動や上中・阿山・市女の各母校支部の活動、各卒業年度別同窓会活動等の活性化を促進すると共に、同窓会として母校の発展に少しでも寄与出来るよう、会員各位の年会費納入に御協力をお願い申し上げます。いずれ、学年幹事の方々を通じて改めてお願い申し上げますので、その節は宜しく御協力下さい。

今後、上高同窓会会員の皆様の御多幸と御健勝をお祈り致しまして挨拶と致します。

「南極は環境問題を解く聖地」

第43次観測隊長 西尾文彦さん(高16回)

地球環境のための観測を 無事に任務終えて安堵

西尾文彦さん(64年・上野高校16回卒)は昨秋から今春にかけて、日本の第43次南極観測隊の総指揮をとられた。三月末に帰国し、四月早々から大学改革や大学院研究科主任の仕事など多忙な日々を送っておられる中で、「南極」との関わりや観測の意義などについてうかがった。

隊長として一番神経を使ったのはやはり安全に任務を遂行すること。その意味で計画以上の仕事ができ、大きな事故もなく隊員が大きな満足感と達成感をもってくれたことでほっとしているところだ。

南極観測は、科学研究を通して人類共有の財産として調査、活用、管理していくこととする一種の国連統治です。だから隊員は国際的な立場を理解し、自負心と緊張感をもって仕事をすることになる。人間的にも成長していく姿を見ることが出来ます。いわば南極は大きな舞台であり、隊員は主役として責任をもって舞台でその役割を演じるのです。

今回の南極では、ヘリコプターで大陸を飛び回ったそうだが、南極といえは、映画にもなったカフツ犬の「タロー・ジロー」の物語を思い出す。西尾さんは75年に初めて、たった4人の越冬隊員としてマイナス60度にもなる極寒の「みずほ基地」の生活を体験さ

れた。

極地研究所の助手になってすぐの頃で、昭和基地から三〇〇も南の内陸にある「みずほ基地」でリーターを務めました。昼も暗くて一面白一色の世界でカタバ風という寒い風と地吹雪の毎日。越冬が終わってやっと海が見えた時の色彩感が印象に残っています。この時の研究課題の「氷震」という氷の破壊現象で学位論文を書きました。現在の南極は、「地球環境の問題を解明する聖地」、「未知の自然現象が多く存在する科学研究の拠点」だとのこと。その中で、いま最も重要なテーマは……?

オゾン層の破壊であるオゾンホールが南極の大気観測で発見されたことは有名ですがこの進行を継続して観測することや地球温暖化の影響がいかにあらわれているか、などが緊急のテーマですね。南極では、オーロラ観測から巨大な太陽風エネルギーの解明、豊かな生態系の観測、地球のプレート運動の原点としての地学的観測などと共に電離層、気象、重力、海洋の観測を進めています。



観測船「しらせ」で雪山を背景に

「海水とは？」などと想像を巡らせていました。高校時代には、南極へ行くのは外国へ行く一つの方法だと思っ

その頃の友人には南極への想いをよく話していましたね。そして、南極へ行くには船乗りになることだと思って東京商船大学を受験しました。しかし、南極の勉強のために東北大学理学部地球物理学科へ進みました。

大学進学がそのまま南極へ近づく大きな第一歩となった西尾さんは、勉強と体力作りの両面からの努力を続けたとのこと。

少年の夢 みごと実現

西尾さんは、少年時代に、第1次南極越冬隊

に入ってから山登りをしながら身体の訓練と技術の修得に努めました。その後、北海道大学の修士課程に進むと、低温科学研究所に南極での越冬2回の経験のある教授がおられ、自分も南極に行かなければ出来ない研究テーマを選びました。

南極から平和を考える

現在の南極観測船は「しらせ」。明治初期に南極探検をした日本の軍人、白瀬中尉の名からとられたものだが、その白瀬中尉が大正二年に上野高校の前身、三重県立第三中学校にも講演に来ていた。当時在学中で後の作家、横光利一もその講演を聴いたはず。そして、九十年後に三中・上高の後輩が観測隊長になった。

「しらせ」は暴風雨圏で、左舷53度、右舷48度と大揺れの船旅でした。いまでも南氷洋の旅は大変ですが、明治十年という時代に日本人の中で南極、北極という一般の人々の想像すらしない地球の両極を視野に入れたことは大きな意味を持つています。人間は想像の産物であるといいますが、考えたことを実行する、ここに研究の原点があると思います。そして、西尾さんに影響を受けた「考えたことをまずやってみなはれ」の想いがつながりですね。

いまでは、一般の人の南極ツアーもあり、冒険家や写真家などが極地向かうこと多い現代だが今後は南極の環境保全が課題とのこと。出来るかぎり多くの人に南極を見て、体験してもらいたいと思います。しかし、なるべく純粋な自然条件の下での観測をするためには環境保全の為に制限が必要ですね。

南極は人類共有の財産であり、それをうまく保全し、活用していくことが将来の重要な目標だと思います。南極での体験は人類の平和を願う気持ちにつながっていくと考えています。

(この記事は、昨年八月に上野で開かれた「西尾文彦隊長を励ます会」のため提供された折とその後の電子メールによる取材から構成したものです。)

会員へのサービス充実化へ 年会費納入にご協力を

年会費制の導入は、数年前からの懸案事項でしたが、百周年事業の終了した昨年度より二年越しの継続審議を経て、ようやく本年度の総会で承認されたものです。それは、停滞化しつつある上高同窓会を活性化させ、財政基盤を確立して百年の歴史と伝統を持つ上高同窓会に相応しい活動ができる体制を作り上げ、会員の皆様のご要望にお答えできるようにするものです。このことは具体的に、次の三点にまとめられます。

まず第一に、これまで入会金だけで運営していた本会の経営は、この一、二年で行き詰まってしまうということでした。それは次の理由からです。

現在、入会金は一万円であり、これ以上の引き上げは困難です。少子化による入学定員の減少から入会金総額の減少が進んでいます。(過去四五〇人、本年三六〇人)

第二に、三年前の創立百周年記念事業の中で継続性のある事業には、百周年記念基金から補填してきましたが、二、三年先にはこれも底をつく状況にあります。しかしこの事業は本会として継続しなければならぬ大事なものです。その事業とは次に掲げるものです。

・同窓会報「白亜」の発行とホームページの開設(予算四七〇万円)
・一般公開講座(アカデミアみえ)、雪解の集い、短期交換留学生事業への助成(予算六八万円)
・百周年記念施設(同窓会館、同窓会文庫、横光資料室、記念庭園)の維持管理(予算一〇五万円)

第三に、会員の皆様へのサービスの徹底をはかるために、以下のような組織強化の体制をとっていくことです。

・各支部等に活動助成金を交付(予算一五〇万円)
・各学年同窓会、クラブOB会に援助やサービスを提供(予算五〇万円)

・本部総会の拡充(本年度は上高二回、一、二回、講演講師の学年と合同、予算八〇万円)
・本部事務局に常勤の事務職員を補充(一五〇万円必要)

以上、このような事情から年会費制を軌道に乗せることにより、上高同窓会は強固な土台組織と肥沃な土壌を形成して、その活動が大きく開花し結実するものと考えております。

ホームページを更新 委員会も設置

上高同窓会ではホームページ委員会(田中愛一郎委員長)を新設し、インターネットによる広報活動を継続的に行うことに致しました。同窓会活動や母校のホットなニュースを発信致したいと思っておりますので、御利用いただくと同時に、御支援を賜りますようお願い申し上げます。



この三月に「濱川勝彦先生の古稀と出版を祝う会」が、上野高校時代の教え子を中心になって開かれた。「エッ！濱川先生が古稀？」と驚く人も多い。確かに昔のイメージのままの先生だが、上野高校を離れ、大学の先生になられてもう三十二年。現在は四校目で、先生の郷里でもある神戸へ通勤されている。女子大ばかりになったのは「私が選んだわけではありませぬ」とのこと。

濱川勝彦先生

近年は、奈良女子大時代に担当した留学生の依頼で韓国やインドの大学にも度々出張されている。昨春はインドのデリー大やネルー大学で院生のゼミの指導にあたられた。環境の変化についての周囲の心配をよそに「まあま

あ、私には合っていましたね」と意外な感想。カラッとした気候とスパイシーな食事は先生にはよかったようだ。「聖なる川ガンジス」、ゆったりとした時の流れ……大学のなかに町があるようだ。「もし、ずっとインドに……と請われたら？」「うーん、何とか大丈夫でしょう」(笑)「海を眺めているのが好きでね」という神戸っ子の先生、大陸的な一面を秘めておられるのかも。数年前にはヨーロッパを旅行された。パリのオランジュ美術館では、横光の「旅愁」の一面を堪能されたとのこと。一昨年は「梶井基次郎論」、昨年は「論攷 横光利一」を上梓され、新しい視点からの研究が注目されている。今秋



またインド行きの話もあるそうで、今後は、芥川龍之介、川端康成、伊東静雄の研究をまとめていきたい、とますます研究意欲を高めておられる。
(稲浦敏美・安屋昌子 高19回)

懐かしの先生をたずねて

吉永昌平先生



今春、定年退職された吉永昌平先生は二七年間、上野高校で勤められた。その間、実に一万人を超える上高生がお世話になったことになる。数学の授業やクラス担任としてだけでなく吹奏楽部、ギター・マンドリン部の指導にあたられ、両部は数多くのコンクールで優秀な成績を残している。前任校の名張高校と上野高校の教え子たちの手で退官記念誌「青春の和音」が編集された。

クラブの指導法については「技術的、具体的な指導は一切しなかった。練習は生徒の自主性に任せて、あまり褒めずむしろ突き放すくらいだった」との答え。「人の心を打つ演奏を目指すためには、技術の修得は勿論だが、

それにもまして練習の過程から気持ち一つにすることが大事であり、部員がそんな気持ちで自分に向かってくることを期待している」とも言われる。上高生の今昔については、「昔から

上高生には良くも悪くもプライドのようなものがあり、言動がしつかりしていた。最近では幼さが目立つ」と残念そう。「勉強の意欲はあっても自分さえよければ他とはかわらなくても、という考えは人間的に欠けているように思う。人とのつながりを大切に、自分が共感することの意味、人を生かすことの喜びを知ってほしい」との言葉は現役の生徒だけではなく、卒業生にも貴重な教訓をいただいている。

米でフロッポーツを取材

奥田さん、「イチローのメジャー1年目」を出版

野球を知る知らないに問わず、日本中が「イチロー」という名で沸き返った昨年、「夢の彼方で」という、メジャー一年目の軌跡を綴った作品を世に出した一人の青年がいる。彼の名は奥田秀樹君(高32回)。

上野高校から関西学院大学に進み、スポーツ、映画等、幅広い活動を行った後、アメリカカンファットボールを知る。本場で取材した「イチローのメジャー1年目」という名で、一九九〇年三月、単身アメリカに渡った。彼はアメリカカンファットボールマガジンの特派員として試行錯誤を繰り返しながら、現在の地位を確立していった。

その後、取材対象はNFL(バスケットボール)へと移り、現在は、メジャーリーグに熱い視線を向けている。ドジャースの野茂英雄が肘の故障等で、マイナーリーグで投げる事を余儀なくされた時、「アメリカに来れば、マイナーで投げることもあると覚悟してました」と意気込んで語った姿に力強さを感じたとか。



奥田 秀樹さん

アメリカの四大プロスポーツすらピンとこなかった私にも、興味深い話が飛び込んでくる。カリフォルニア州トレンス、彼は今、そこで日本人の奥様と六歳と二歳の子供たちに囲まれて暮らしている。私の脳裏には、二〇年以上前の学生服を着た奥田君の姿が思い出すことはできないが、この遠い空の下から再び会うことを楽しみに彼の活躍を祈るファンの一入でありたいと思っている。
(米岡広美 高32回)



少年野球に夢を託して

OBがコーチで県大会V

「野球 快進撃で堂々準優勝」。「投打まつまり好プレー八〇周年に花添える」。昭和五四年「上野新聞」八〇周年記念特別号のトップ見出しだ。甲子園が目の前まで迫った県大会での堂々の準優勝。その時のメンパーを中心に「甲子園出場の夢を次世代に託したい」との思いから、三年前に少年硬式野球チームの「伊賀ボーイズ」を結成した。

昨年七月からチームを率いている監督は、その時の二塁手・武岡恒さん(高31回)。また、投手の長谷川真嗣さん(高31回)や、その後輩にあたる谷本浩司さん(高32回)、安本昌宏さん(高33回)、福岡基樹さん(高47回)、杉本佳彦さん(高48回)、西岡崇さん(高48回)の六名がコーチをつとめる。チームの指導



者たちには、もう一つ大きな思いがある。それは、野球の恩師である当時の監督、故・富増良樹さん(高13回)の「野球を通しての人間教育」という意志を継承するというものだ。

第一に、あいさつに始まる礼儀、規律のしつけという人間的側面の充実、第二に技術面では基本の徹底はもとより心技体のバランス強化、第三に野球を通してリーダーシップや素直な心の育成、これらを念頭に熱く指導を行っている。そこには、四十九名の「全国制覇」を夢見る野球少年の姿がある。野球チームとしては、まだまだ無名に近いが、平成十三年秋の三重県リーグ戦では、津や四日市のチームを抑えて、みごと初優勝を果たした。

彼らの思いは、この少年たちに託されて、いま、一歩一歩と歩み始めている。
(澤田千代美 高32回)

おたより
おしろせ

上高第11回

関東在住者の方々のお世話(二回目)で、平成十三年一月一七日、箱根芦の湯温泉・松坂屋本店にて開催。参加者五八名。三年間担任として持ち上がっていただいた元上野高校長・田中利男先生が、教育功労として秋の叙勲で勲四等瑞宝章を受章されたとの報を受け、衆議一決、11回卒業生有志でお祝いの記念品を贈呈させていただいた。還暦を迎え、三年に一度の同窓会を二年に一度開くことにしようとして申し合わせた。(橋本(高田)俊士)



上高第30回

今年、一月二日に、上高第30回卒業生(昭和五四年三月卒)同窓会を開催しました。一〇〇名ほどが集まり、恩師の先生にも参加いただき、会に花を添えていただきました。学年の同窓生全員に呼びかけての実施は、二回目となり。昔話に話が弾んだり、昔と変わった今の姿に驚いたり、あっという間に過ぎた一次会の三時間でした。

二次会、三次会までたくさん参加し、夜遅くまで旧友の温かさを感じた一日でした。同窓会は、ワールドカップ年に開催することに決めてあります。四年後の再会を心待ちにしています。(中浦 基之)

新卒業生歓迎懇親会(東京支部)に参加して



去る六月一日、東京銀座・三笠会館で開催された新卒業生歓迎会に上野から四名が参加させていただきました。東京支部の吉岡会長は、八〇人にも上る同窓の学生に招待状を出したにもかかわらず、返事が来たのはわずか半数と少々嘆いておられました。しかし、そこで出会った今春の卒業生はだれもみな目を輝かせて、それぞれの充実した生活を語ってくれたのです。中には高校時代のイメージとはガラリと変わった子もいて、卒業後のわずか三ヶ月で立派に成長していることを実感しました。また帰り際にエレベーターの前で出会った過年度卒業生は、三年にも及ぶ浪人生活の後、見事志望校に合格、穏やかな表情の中にも自信があふれ、とても嬉しそうでした。この大都会に散らばって住む卒業生

総会報告

平成13年度の総会は昨年10月6日に上野フレックスホテルにおいて開催されました。前月に行われた役員会・理事会の議案が審議承認されました。総会事項は次の通りです。

- 日時 平成13年10月6日(土) 14:00~16:30
挨拶 星岡補会長 山本操学校長
来賓 大中道昭郎東京支部長 松井昭京阪神支部長
議事 平成12年度事業報告 平成12年度一般会計及び特別会計の決算・監査報告 平成13年度事業計画 平成13年度一般会計及び特別会計予算案 会則変更に関する件
平成12年度会計決算と平成13年度会計予算は左の通りです。



総会に続いて記念講演会が行われました。
演題 「町並みと民家のデザイン ―現代社会が失ったもの―」
講師 大場 修氏(上高25回) 京都府立大学教授 工学博士
講演要旨 個性のない雑多な建物や愛着を感じさせない雑然とした町並みは、現在日本の多くの都市で見受けられる。それとは対照的に、失われつつある日本の伝統的な民家と町並みの調和のとれた美しさと機能性の良さについてスライドを使って話されました。そしてこれらの保存と活用で現代に継承発展させることの必要性を力説されました。

次回総会のご案内

平成14年度の総会・講演会・懇親会を下記の通り開催します。お誘い合わせの上、多数ご出席下さいますようよろしくお願い申し上げます。
日時 平成14年10月6日(日) 14時より
会場 上野フレックスホテル
講演会(総会后) 講師 西尾 文彦氏(高16回) (千葉大学環境リサーチセンター教授)
演題 「南極観測活動から学ぶこと……南極観測隊長としての経験から」

平成12年度(平成12年9月1日~平成13年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成13年度(平成13年9月1日~平成14年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支予算書

Table with 6 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 前年度実績額, 対比 A-B, 対比 A-C. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成12年度(平成12年9月1日~平成13年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支決算書

Table with 3 columns: 科目, 決算額. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

Table with 3 columns: 科目, 決算額. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成12年度(平成12年9月1日~平成13年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度実績額, 対比 A-B. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

Table with 4 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度実績額, 対比 A-B. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成12年度(平成12年9月1日~平成13年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会百周年記念事業(募金)特別会計収支決算書

Table with 3 columns: 科目, 決算額. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

Table with 3 columns: 科目, 決算額. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成13年度(平成13年9月1日~平成14年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会百周年記念事業(募金)特別会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度実績額, 対比 A-B. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

Table with 4 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度実績額, 対比 A-B. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.